

## アイスランドの火山噴火（551号）

2024年 1月 石館

世界有数の火山国として知られるアイスランド南西部のレイキャネス半島で昨年12月18日夜、火山が噴火した。アイスランド気象当局によると、火山付近では約2か月前から群発地震が起きるなどして噴火の危険が高まっていた。



また今年になって1月14日ほぼ12月と同じ場所で噴火が起き、住民は事前に避難したが、流れ出た溶岩が街に到達し、住宅が燃えるなどの被害が出た。

昨年12月の噴火の後、街の北側では溶岩流を防ぐ防護壁の建設が進められていたが、今回の噴火の一部は防護壁より街に近いところで起きたということで住宅に到達した。

2010年の大規模な噴火では火山灰がヨーロッパ上空の広い範囲に広がり、各地の空港で合わせて10万便以上が欠航したが今回の噴火による航空便への影響は出ていない。



アイスランド気象当局によると、南西部レイキャネスにある火山が12月18日噴火し、溶岩と煙が噴出した。グリンダビークで撮影。Civil Protection of Iceland提供写真（2023年 ロイター）

12月に起きたレイキャネス半島の噴火。一つの噴火口から噴火だけでなくしばしば割れ目噴火が見られる。

アイスランドには活火山が多数存在している。2008年現在30の活火山が確

認されている。アイスランドへの入植は西暦874年に始まったとされるが、それから現在までに、記録が残っているだけで13回の噴火があった。

記録に残っている中で最もひどい噴火は、1783年から1784年にかけて起きた。これらの噴火でアイスランドの人口の4分の1が死亡した。但しこの時の大部分の死者は、火山灰などによる気候変動や、火山灰や火山性の有毒ガスによる家畜の死亡などを原因とする飢饉といった、火山噴火の間接的な影響によって発生している。



これほど活火山が集中しているのは、アイスランドが大西洋中央海嶺の真上にあるためである。もしくは海嶺が海面上に顔を出した状態がアイスランドと言い換えることが出来る。

小生一家は2016年まではほぼ毎年娘のいるベルリンを

訪問してきたが、2016年には娘が今度ベルリンに来たときはアイスランドに行こうと言ってきた。小生もアイスランドには行ったことがないし、この火山島には興味を持っていたので行く前に色々調べたりした。しかし残念ながらその年は体調を崩し結局行くことは出来なかった。



アイスランドの首都レイキャビク。

北大西洋上に北極圏に接して浮かぶ日本の北海道と四国を合わせた程度の島国。人口は約35万人。多くの火山と豊富な温泉。そして氷河とフィヨルドが織りなす大自然の景観が展開する。

北緯63-66度の北極圏の南に位置しながら。暖流と火山の地熱の影響で、緯度の割には冬の寒さが比較的穏やかな西岸海洋性気候。1月は日本の北海道より暖かい。ただ6-8月の夏場でも最高気温は10度台にしかならない。

アイスランドは国土の大部分が西経15度より西にあるにもかかわらずグリニッジ標準時を使っている。火山性の土壌で大地は肥沃とは言えない。アイスランドの森林はかつては乱伐が行われたことも手伝って、現在の森林面積は国土の0.3%しかない。国土を構成する島はプレート間の亀裂部分に位置しており、間欠泉や頻繁な火山活動のどの地質活動がある。



矢印の先がレイキャネス半島で今回噴火した場所

アイスランドは金融立国であり、2007年当時の人間開発指数によると世界で最も発展した国であったが、2008年から2011年にかけて経済危機が発生、国家経済が金融に強く

依存していたため2008年の世界金融危機の影響を強く受けて2008年10月に債務不履行となった。

その後、自国通貨アイスランド・クローネも暴落したが、これが漁業やアルミニウム工業などの輸出産業にとって有利に働いたので、かえって景気が回復することになった。2016年には経済成長率は7.2%に達した。



アイスランドに数多くある間欠泉の中で最大規模のグイシール間欠泉

EU発足後漁業への規制などを恐れ、EU加盟には慎重であった。しかし2008年のリーマンショックによりEU加盟に前向きになった。

しかしアイスランドの基幹産業である漁業界の存在が加盟への障壁となった。漁獲量がEUによって制限される。アイスランドの豊かな漁場を他のEU加盟

国に明け渡すことになり、漁業界は激しく抵抗した。2013年4月には総選挙が実施され、EU加盟問題に関する国民投票の実施などを公約に掲げた進歩党と独立党が勝利し、両党により連立政権が誕生した。EU加盟に反対の立場を取る同政権は、加盟交渉を凍結し、翌年には加盟申請の取り下げを発表した。



アイスランドのオーロラ

NATO の原加盟国であるが自国軍は所持しておらず、世界でも稀な“軍隊を保有しない国家”である。かつては

アメリカ合衆国と国防協定を締結してアメリカ空軍基地を設置し、冷戦下の重要な戦略拠点となっていた。しかし、冷戦終結から10数年を経た2006年、アメリカの地球規模の戦力再編の一環による米軍の完全撤収が両国で合意に至り、米軍基地が段階的に閉鎖された。但し、有事の際にはアメリカがアイスランド防衛を保証する協定を結んでいる。